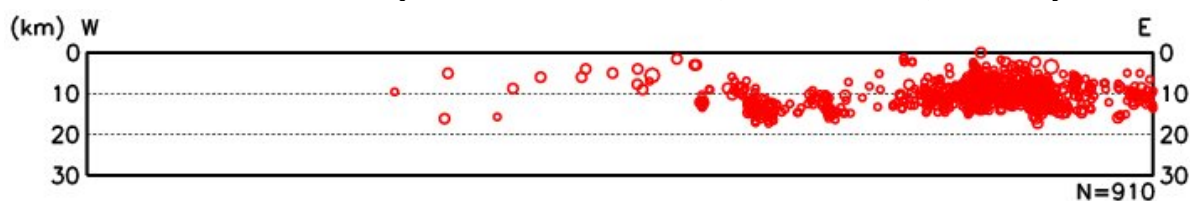
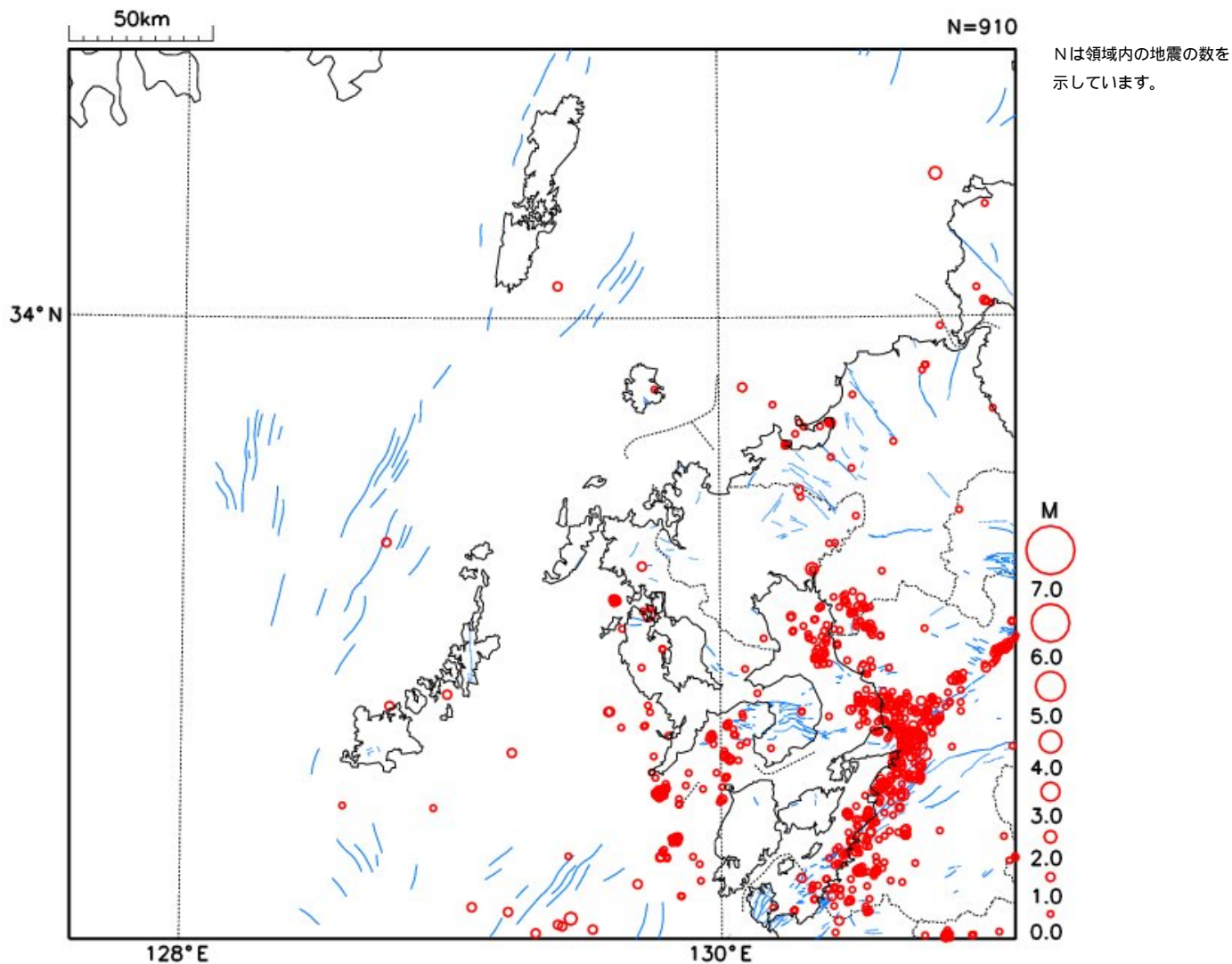


長崎県の地震活動概況（2019 年 10 月）

令和元年 11 月 11 日

長崎地方気象台



断面図（2019 年 10 月 1 日 ~ 31 日、深さ 30 km 以浅、M 0.0）
（震央分布図を南の方から見た断面図です）

地震活動の概況（2019 年 10 月）

10 月に長崎県内で震度 1 以上を観測した地震はありませんでした（9 月：4 回）。

本資料の震央分布図の青色のラインは活断層を示す（活断層のデータは新編日本の活断層による）。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

南海トラフ地震 地域「防災・減災」シンポジウム 2019 ～「情報」と「行動」が命を救う～

南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域として概ね 100 ～ 150 年間隔で繰り返し発生してきた大規模地震です。前回の南海トラフ地震（昭和東南海地震（1944 年）と昭和南海地震（1946 年））が発生してから 70 年以上が経過し、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高まっています（図 1）。

気象庁では、今年 5 月から南海トラフ地震に関する新たな情報の提供を開始するとともに、南海トラフ地震による被害防止・軽減を目的として、南海トラフ地震への対策を強化すべき地域でシンポジウムを開催しています。九州・山口県では、11 月 24 日（日）に宮崎県宮崎市で開催します。

シンポジウムでは、南海トラフ地震や防災に関する取り組みなどを紹介するとともに、新しい情報である「南海トラフ地震臨時情報」や緊急地震速報、津波警報などを活用して命を守るための地域防災をテーマに議論をします。

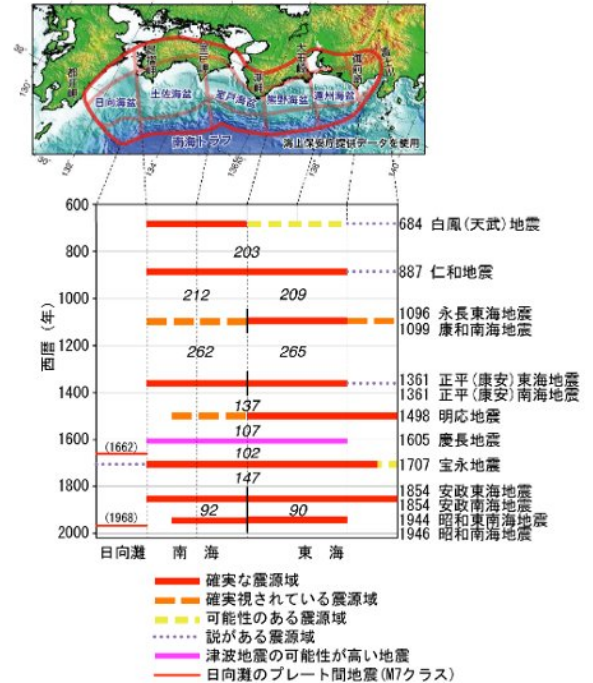


図 1 過去に発生した南海トラフ地震の震源域の時空間分布
「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版）」（地震調査研究推進本部）

開催内容の詳細や申し込み方法などについては、以下の Web ページでご確認ください。

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/nteq_symposium.html



写真 今年 3 月に愛知県名古屋市で開催したシンポジウム当日の様子